

[GRAPEVINE]

第48回 ASEV年次大会参加記8
サンディエゴ一日ツアー

(株) アルプス 矢ヶ崎 弘道

幸運にもASEV年次大会へ参加するメンバーに入れてもらい、私にとって学ぶこと、非常に役立つことの多かった今回の旅の中で、ひとときわ想い出深いイベントの一つがこの「サンディエゴ一日ツアー」である。

我々日本ASEV参加ツアーの団体一行は、サンディエゴ湾に面する一等地にあるASEV会場のコンベンションセンターから目と鼻の先にあるホテルに滞在していたのだが、このツアーに参加することによって徒歩ではとても行くことができない場所までも地元のツアーコンダクターの案内で効果的に周ることが出来た。サンディエゴには幾つもの見逃すことが出来ない名所があるが、そのほとんどを1日かからずに十分に堪能できたのもツアーコンの卓越したドライビングテクニックと私も含めた参加メンバーの日頃の行いのおかげ・・・ということが出来よう。

先ず朝8時にホテルロビーに集合。時差ばかりもそろそろスッキリしているはずなのだがこのところ続いている強行軍のためか、久々の大都市の夜に興奮したためか、メンバーは全員眠そうである。それでも時間通りに全員集まったのはさすがというべきか。とりあえず2班に別れ、別々の車に乗り込み、ホテルを出発。最初の目的地はサンディエゴ湾を挟んだホテルの丁度裏側、コロナドと呼ばれる半島。長い橋を渡り、15分位走ると海辺に出る。湾に突き出した栈橋の先まで歩き、遠くダウンタウンに見えるホテル群、コンベンションセンターを望む。のんびりとした風景に一同、疲れを忘れた。

ここ、コロナドには素晴らしく有名な古いホテルが有るらしい。1887年に建てられ、かのクリントン大統領もサンディエゴ滞在中には常宿としていた伝統あるホテル、ホテル・デル・コロナドだ。クリントンだけでなく歴代大統領のうち12人までもがこのホテルに泊まったというから恐れ入る。

それだけではなくマリリンモンローとかいう人が映画を撮ったという話でも有名だ。何でも「お熱いのがお好き」という映画だそうで、不幸にして私はこの映画を見たことはないが、なんとも心踊るタイトルではないか。オールドファンならずとも一度は訪れてみたくなるのが人情というもの。ホテルに入ってみれば観光客で一杯。アメリカ人も日本人も皆さんおそろいでホテルのロビーである大広間を見てため息。古めかしいシャンデリア、エレベーターを見てため息。その辺に散在する壺など引っかけた壊さないうちに早々にホテルの地下に作られた観光客用のコースへと退散。この地下道には色々な小さな店が観光客を引っ張り込もうと並んでいる。ギャラリー、宝石店、Tシャツ屋、スポーツ店、おもちゃ屋、眼鏡屋、レストラン、あらゆる種類の店があるがそのどれもが女の子なら「きゃーっ!! かわいいっ!!」と思わず庭駆け回るような造りなのだ。

さて、次なる目的地はバルボアパーク。数多くの娯楽施設を内蔵する人工の森である。長い橋を戻り、走っているここは、昨日の晩、夕食を求めて歩き回った4番街、5番街、これ以上はちょっと危ないですから行かないでくださいねと言われた6番街ではないか。この辺りはガスランプ・クォーターと呼ばれる地域で昔ながらの美しいビクトリア調の建物が修復されて、ブティックやレストランが建ち並ぶ。ホテルから割と近いのであった。それにしてもカリフォルニアで第3位、全米でも第6位という大都市であるはずなのになぜか人の姿が少ない。皆、暑さで倒れているのだろうか。

走行するうちにいつのまにかバルボアパーク内に車は入っている。あまりに広いため一体いつ入り込んだのかわからないほどだ。(今、資料を見直しながら書き進んでいるがバルボアパークの広さは5.6 km²だそうだ。印象よりも狭い) この中には広いことで有名な動物園を始めとして、博物館、

美術館、劇場、野外劇場、レストラン、スポーツ施設が入っている。まともに全部見ようとする丸一日はたっぷりかかるのでスケジュールの詰まった我々はそそくさと車を降り、パチパチ写真を撮って去ったのであった。ちなみに次の日、大会終了後にここの動物園に行ったグループがある。聞いてみれば割合近いところにあり、動物園の閉園時刻も10:00 pmと遅いので気軽に出かけられるらしい。

バルボアパークの次はオールドタウン。アメリカ最南端の都市、というわけではないがまぎれもなく隣国メキシコに最も近い街サンディエゴはそこかしこにメキシコの匂いが漂っている。オールドタウンはサンディエゴが生まれた時、多くのメキシコ人とその文化を吸収してきたその発祥の地である。ここは当時の建物を修復、保存してある場所なのだ。もちろん、今はすっかり観光地化しており、メキシコ風の土産物屋などが並んでいる。古いがどこか派手な感じのする南国風の建物。カラフルな広い中庭のレストラン。ここでのお勧めは香辛料。いかにも辛そうな植物が粉になったり、乾燥されたりして売っている。辛いものマニアは絶対入手。もちろんテキーラもある。昼食はサンディエゴ随一と名高いチャイニーズレストラン(名前 失念)。参加したメンバーの話はいろんな方向へ飛び回りながら、お互いに親睦を深め合う。

午後の部、最初の場所はホテルに近いシーポートビレッジ。港に面した憩いの場、というところ。ここでもアイスクリームショップ、Tシャツ屋やちょっとした土産屋が並んでいる。せっせと買い物するもよし、木陰でのんびり昼寝するもよし。

ここで半日観光コースのメンバーとはお別れである。一日観光組はサンディエゴの少し北に行ったラ・ホヤという瀟洒な町へ向かう。

高速道路に乗り、しばらく北上するとここにもちょっとした名所があるという。地元では「神の山」と呼ばれる小高い丘である。ここまで登ると、はるかサンディエゴの中心部が一望のもとに見渡すことが出来る。名前通り頂上には大きな十字架が建てられていたが、色々な宗教のあるアメリカ

のこと、「神」はキリスト教だけではないと苦情が寄せられているようでこの十字架ももうすぐ取り壊されるようである。おおらかなようで意外と細かい人たちなのだが日本人にはこういった苦情は多分理解しにくいはずだ。

ラ・ホヤまでもう少しといったところで海にいったん出た。この辺に大きな洞窟があるというのだが、まるで見えない。少し急な細い坂道を下り海に突き出た形の岩場の先端まで出てもやはり見えない。洞窟なんてあるとしてもかなり小さいもので近くまでいかなければ見えないのだろうと思って海岸沿いの道を歩いてゆくと、あった。なんと先ほどまで立っていた岩場全体の丁度真下に大きく口を開けた洞窟が。ここまで歩かないとわからないわけだ。

そのまま海岸沿いに歩いて下ってゆくと海水浴場に出る。とはいっても寒流の関係でこの辺の水温はかなり低いらしい。それでもこの外気温の高さから人は水辺に吸い寄せられるのか結構人が泳いでいる。と、見るとなんと、人と一緒にアシカ君が5頭くらい混じっている。良く見れば浜辺でじっと寝ているやつもいる。その横で人間も同じように寝そべっている。子どもらしいアシカも人間の子どものと一緒に泳いでまるで遊んでいるようだ。全くすごい光景を見てしまった。

ラ・ホヤの町に着いた。さっきの海岸から300mほど陸に入ったところだ、というよりその海水浴上がすでにラ・ホヤの一部なのだろう。この辺には前もって聞かされていた通り、高級ブティックやギャラリーが軒を連ねる通りがある。ここまでで今時間は3時。すでに疲労をおぼえ、買い物に興味もないメンバーは30分でホテルへ帰ることになり、疲労はあるがそんなことは言っちゃいけないわよっという一部のメンバーは1時間ほどここにいてショッピングを楽しんだ…らしい。

結局朝8時から夕4時(5時)までガイドがついて昼食付で85ドル。そんなに悪い値段ももないかな、というのが私の印象。あなたもサンディエゴに立ち寄る機会があったら試してみたいかがでしょう。以上